

149 非機能性副腎腺腫における副腎皮質シンチグラフィの臨床的意義

三宅秀敏, 脇坂昌紀, 上田真也, 中島彰久, 前田宏文 (大分医科大学放射線科)

副腎以外の疾患で撮られたCTにて偶然に発見された非機能性副腎腺腫6例(男1例, 女5例, 年齢50~70歳, 腫瘍径 1.5~4.0cm)と転移性副腎腫瘍4例5病変(男3例, 女1例, 年齢57~77歳, 腫瘍径 1.5~4.5cm)に副腎皮質シンチグラフィを施行した。

非機能性副腎腺腫6例中, 病変側のみ高集積を示したものの1例, 正常側より高集積を示したものの5例であった。転移症例4例(5病変)中, 病変側に集積のみなかったもの3例(4病変), 正常側と同程度の集積を示したものの1例であった。非機能性副腎腺腫においても, 副腎皮質シンチグラフィは高集積を示すものが多く, 転移性副腎腫瘍との鑑別に有用と考える。

150 副腎腫瘍の診断における I-131 アドステロールシンチグラフィの臨床的意義

塚本 江利子, 伊藤 和夫, 古館 正従 (北大核医), 鈴木 恵士郎 (北大放射線科)

CT スキャンや超音波の普及とともにない, 近年, 偶然発見される副腎腫瘍 (incidentaloma) がふえている。

1983年1月から1989年3月までに我々の施設で施行された I-131 アドステロールシンチグラフィは約100例で, そのうち約1/3が incidentaloma の症例であった。これらの症例のほとんどは臨床的には内分泌学的な異常を伴っていなかったが, 画像上は患側の集積亢進を認めるものも多く, なかには健側の抑制を示すものもあって, 機能性の副腎腫瘍と誤りやすかった。これらの症例を retrospective に大きさ, 内分泌機能, 病理組織などから分析し, 副腎腫瘍における I-131 アドステロールシンチグラフィの臨床的意義を考察した。

151 褐色細胞腫における ¹³¹I-MIBG の診断的意義

浅野見司, 町田豊平, 大石幸彦, 上田正山, 木戸 晃, 鳥居伸一郎, 吉越富久夫, 古田 希, 川島禎男, 長谷川倫男 (慈大泌尿器科)

褐色細胞腫における ¹³¹I-metaiodobenzylguanidine (¹³¹I-MIBG) の局在診断能について検討した。対象は副腎褐色細胞腫7例(2例は兄妹例Sipple症候群), 悪性膀胱褐色細胞腫1例の8例で, 年齢は29歳~75歳, 平均52歳であった。8例中7例は陽性所見を認めたが, 副腎褐色細胞腫1例は陰性所見であった。また, 悪性膀胱褐色細胞腫例の腸骨動脈リンパ節転移巣への集積は認められなかった。¹³¹I-MIBGシンチグラフィは腫瘍の局在が陽性所見として得られ, 副腎および異所性褐色細胞腫の局在診断に極めて価値が高い。しかし, 陰性所見もあり, こうした症例では, カテコールアミン値, 他の画像診断所見を参考にする必要がある。

152 I-131 MIBG による R I 治療が著効した悪性褐色細胞腫の1症例

岡沢秀彦, 遠藤啓吾, 佐賀恒夫, 小西淳二, 阿部光幸, 河合忠一* (京大・医・放核, 同 内科*)

I-131 MIBG によるシンチグラフィは褐色細胞腫の局在診断に有用であるが, 悪性褐色細胞腫の治療にも応用されている。我々は 副腎褐色細胞腫の手術3年後に肺, 肝臓, 腹部リンパ節に多発性に転移した悪性褐色細胞腫に対し, I-131 MIBG 100mCi による治療を行った。I-131 MIBG 投与中および直後には異常所見は見られなかったが, 翌日より中毒症状を呈し, 全身倦怠感, 食欲低下, 起立性低血圧が持続した。しかし投与40日目頃より次第に全身症状は改善し始め, 画像診断でも肺・肝臓の転移病巣が縮小し, ほとんど認められないようになった。I-131 MIBG による内部照射が著効, 組織崩壊により一過性に褐色細胞腫が増悪したと考えられる。

153 ¹³¹I-MIBG による Malignant pheochromocytoma の治療3例

中野敬子, 日下部きよ子, 牧 正子, 太田淑子, 廣江道昭, 重田帝子 (東女医大 放) 伊藤悠其雄, 小原孝男, 藤本吉秀 (東女医大 内分泌外科)

我々は, 悪性褐色細胞腫に対して, 初回例に引き続き ¹³¹I-MIBG 療法を行なったので報告する。症例1は全身多発性転移を呈した初回治療例で, 治療後2年以上経過した。症例2は, 縦隔内の左心房に接した原発巣と骨転移を伴った症例。症例3は 1.1Kg の左副腎原発巣摘出後2年で, 肝転移以外は, CT Scan 上ははっきりした転移は認められず ¹³¹I-MIBG 5mCi でのシンチグラフィで多発性転移を示した症例である。

154 甲状腺専用コンパージングコリメータの試作と臨床的評価

橋本 順, 尾川浩一, 久保敦司, 橋本省三 (慶大医放) 三宮敏和, 清水正三 (同アイソトープ) 類家俊充 (東芝那須)

画像歪の少ない甲状腺イメージングを行うために, 専用のコンパージングコリメータを試作した。本報告ではコンパージングコリメータの優位性をまずシミュレーションによって, パラレルホールコリメータ, ピンホールコリメータとの比較のうえ示し, 次に試作したコリメータについての基本性能を示す。コンパージングコリメータで撮像した画像は, 甲状腺の形状を展開図的にとらえることになるために, 辺縁部のコントラスト分解能に優れた歪の少ない画像となった。さらに腫瘍性病変例を中心に臨床応用した結果に関して, 上記3種類のコリメータを対比させながら検討する。